

■2018年センター倫理本試験分析

70.0% 67.0%

大問	全国 河合塾	講座	問	講座 正答率	正解	自己 解答	配点	長生 現役 正答率	全国 正答率	全国 講座 差	
1 青年と現代	67.2%	62.2%	1	79	7		3	71	71	8	M
			2	29	1		2	57	61	▲32	M
			3	57	7		3	43	72	▲15	M
			4	57	1		3	29	39	18	D+
			5	86	3		3	71	91	▲5	E+
			6	29	1		2	29	49	▲20	D
			7	100	2		3	86	92	8	E+
			8	64	3		3	71	71	▲7	M
			9	21	4		3	57	31	▲10	D+
			10	100	3		3	100	93	7	E+
2 思想の源流	72.9%	74.4%	11	100	2		3	71	84	16	E
			12	64	3		2	71	67	▲3	M
			13	86	4		3	57	84	2	E
			14	50	2		3	57	62	▲12	M
			15	79	4		2	71	77	2	M
			16	57	1		2	71	63	▲6	M
			17	79	1		3	71	78	1	M
			18	50	4		3	43	34	16	D+
			19	86	2		3	100	92	▲6	E+
3 日本思想	72.9%	73.7%	20	93	1		3	86	89	4	E
			21	64	4		3	57	41	23	D
			22	50	2		2	29	76	▲26	M
			23	57	4		3	71	66	▲9	M
			24	71	3		3	71	61	10	M
			25	57	4		2	57	63	▲6	M
			26	71	3		2	57	80	▲9	E
			27	100	4		3	86	87	13	E
			28	100	2		3	86	94	6	E+
4 西洋思想	70.8%	57.3%	29	64	2		3	71	66	▲2	M
			30	36	4		3	43	50	▲14	D
			31	36	5		3	71	55	▲19	M
			32	43	4		3	57	69	▲26	M
			33	93	4		3	100	91	2	E+
			34	36	1		3	86	61	▲25	M
			35	64	3		3	86	86	▲22	E
			36	86	3		3	100	88	▲2	E

倫 理

2018年センター本試験

解答と解説

提出者 14 名

受講者平均 67.43
 全国平均 67.78 (標準偏差15.63)
 長高卒業生平均

第1問 **標準** 《人道主義は利己的か利他的か》

問1 正解は⑦

文脈から、aにはア・イ、bにはウ・エ、cにはオ・カのいずれかが入る。

- a. イ。グローバル化とは、人間の活動が地球規模になること。空欄直前の「遠い他者の利害も自己の利害と深く関係している」がヒントになる。
 - ア。先進国と発展途上国の経済格差は縮小していない。
- b. エ。貧困が戦争の原因となることも多いので、「飢餓や貧困などを救済すること」は「人類の福祉を向上させ、国際平和につながる」といえる。
 - ウ。政府による経済介入を排除する新自由主義のもとでは、福祉を切り捨てる傾向がある。
- c. オ。性別役割分担を社会的・文化的につくられたものとして見直すことは、性別にとらわれずに個性や能力を発揮する男女共同参画社会の実現につながる。
 - カ。性別役割分担を「生物学的性差に依拠するもの」としてしまうと、男女の役割が固定化されてしまう。

問2 正解は①

- ①不適。アメリカの心理学者・教育学者ハヴィガーストは、親から情緒的に独立することを青年期の発達課題としていることから、「親との情緒的なつながりを深めつつ、親の価値観を内面化すること」は誤りと判断できる。
- ②適当。青年期の発達課題として、「職業の選択と準備」「同年齢の男女との洗練された関係」などの10項目をあげた。

CHECK ハヴィガーストの発達課題

- (1)同年齢の男女との洗練された関係、(2)男性または女性としての社会的役割を学ぶこと、(3)自分の身体構造を理解して有効に使うこと、(4)親や他の大人からの情緒的な独立、(5)経済的な独立についての自信、(6)職業の選択と準備、(7)結婚と家庭生活の準備、(8)市民として必要な知識と態度の発達、(9)社会的に責任ある行動を求め、実行すること、(10)行動指針としての価値観や倫理体系を学ぶこと
- ③・④適当。アメリカの社会心理学者オルポートは、成熟した人格の条件として、拡大された自我意識をもつこと、現実や自己を客観化しユーモアの感覚をもつこと、統一された人生観を獲得することなどをあげている。

問3 正解は⑦

ア。イギリスのオーウェンは、ニューラナーク紡績工場の支配人として労働条件の改善に取り組み、アメリカでニューハーモニー村という共同体の建設を試みた。エンゲルスはマルクスとともに科学的社会主義の確立につとめた。

イ. マザー=テレサはインドで貧しい人々への奉仕活動を行った修道女。

ガンディーは非暴力主義によってインド独立運動を指導した。

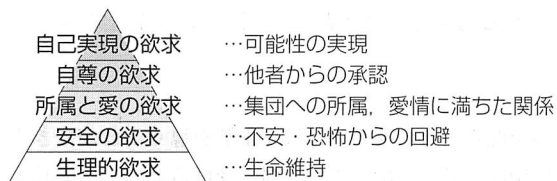
ウ. アメリカで黒人の公民権運動を指導したのはキング牧師。ガンディーの非暴力主義に影響を受けた。

ラッセルはアインシュタインとともに核兵器廃絶を訴えた。

問4 正解は①

アメリカの心理学者マズローは、人間の欲求は、生理的な欠乏を満たそうとする欲求が満たされると、より高次の欲求に向かうという欲求階層説を唱えた。低次なものから順に、生理的欲求⇒安全の欲求⇒所属と愛の欲求⇒自尊(承認)の欲求⇒自己実現の欲求となっている。よって、ア・イともに正。

NOTE マズローの欲求階層説



問5 正解は③

- ①不適・③適当。介護保険制度のねらいは「社会全体で介護を担う」(③)ことであり、家族内の「結び付きを再び強化する」ことを目的としているわけではない。
- ②不適。育児・介護休業法は、育児や介護のための休業を男女とも取得できるように認めており、育児や介護を女性の役割に限定する考え方を見直すもの。
- ④不適。少子化の進展は高齢者介護の人材不足につながるため、「家族と社会の負担を減らす」ことにならない。

問6 正解は①

①適当。1970年代から自然物にも生存権を認める考え方が広まった。

CHECK 自然の生存権を根拠として、「アマミノクロウサギ訴訟」(1995年)など、自然物を原告とする自然の権利訴訟が行われるようになった。

- ②不適。温暖化とは、温室効果ガスが大気中に排出されることで気温が上昇する現象。「フロンガスなどによるオゾン層の破壊」は、地表に達する紫外線の量が増えるため、皮膚がんや白内障などの健康被害を引き起こす。
- ③不適。「有限な環境で自由な利益追求を認めると全員の損害になる」ことを、アメリカの生物学者ハーディンは「共有地の悲劇」と呼んだ。予防原則とは、環境

に対して取り返しのつかない被害を与えるおそれがあれば、科学的根拠がなくても、あらかじめ規制措置を講じるべきだとする考え方。

④不適。酸性雨の原因となるのは、硫黄酸化物(SO_x)や窒素酸化物(NO_x)。

問7 正解は②

①不適。2015年の時点で、総人口に占める高齢者の割合が高い上位3カ国は、日本(26.3%)・イタリア(22.4%)・ドイツ(21.2%)であるが、2050年の上位3カ国は、日本(36.3%)・イタリア(35.1%)・韓国(35.1%)である。

②適当。「2015年と2050年の総人口に占める高齢者の割合の差」は、韓国(22%)、中国(18%)、ブラジル(15%)であり、後半の読み取りも正しい。

③不適。韓国では、2050年の総人口に占める高齢者の割合は2015年の約2.68倍になる。

④不適。2050年の総人口に占める高齢者の割合は、インドでは13.7%である。

問8 正解は③

資料文の内容と選択肢の記述を照らし合わせていけば、正解を導くことができる。

①不適。私たち(国境なき医師団)は「政治的責任を引き受けるため」に活動するわけではないと資料文2文目に述べられている。

②不適。人道的活動は、「活動のための枠組み」つまり国際人道法を必要とすると資料文5・6文目に述べられている。また資料文全体で、人道的活動を行うための政治的責任を述べているので、人道的活動が「政治の影響を受けずに行うことができる」という記述も誤り。

③適当。「政治は、人道主義の存在を保証する責任を自覚しなければなりません」(資料文4文目)から、政治の役割として人道的活動の「独立性を保証」することが求められているとわかる。その具体的内容が資料文7文目に述べられている。

④不適。国際人道法の目的は、人道的活動を保証する責任を国家(政治)に負わせることにあり、国際人道法によって人道的活動が制限を受けることはない。また資料文最後の2文で「紛争の犠牲者へのアクセスを禁じられたり、交戦国に利用されたり」するような今日の状況を批判している。

問9 正解は④

センは貧困問題を分析し、アジア人で初めてノーベル経済学賞を受賞した。「生き方の幅」を「潜在能力」と捉え、人生の選択肢の多さを「豊かさ」の指標とした。所得が同じでも環境が異なると、所得を用いて実現するための自由度には差が出るという面に注目し、ロールズが財の分配のみで平等を検討した点を批判して、「潜

在能力」が平等かどうかという観点で福祉を捉えた。

- ①・③「潜在能力」は「個人の才能」ではない。①・②「財や所得の豊かさ」を「福祉の目標」とする記述は誤り。

CHECK センの用語

機能：人が価値を認める状態。「健康に生活できる」「教育を受けられる」など。

潜在能力：「機能」の集合。様々な機能を選択できる選択肢の幅。

問10 10 正解は③

会話文の読解問題では、発話者の立場を読み取る問題が定番となっている。

- ①不適。Aの4番目の発言で「利他的動機」がなくても「利己的動機」によって「助け合い」は可能だとあるので2文目が誤り。
 ②不適。2文目の内容は会話で触れられていない。
 ③適当。Aの3～5番目の発言に相当し、Aの立場をまとめたものとなっている。
 ④不適。Bの3番目の発言に「人助けしたいという純粋な善意は、利他的動機と言うべき」とあるので、2文目は誤り。

第2問 やや易 《他者の生を模範とする生き方》

問1 11 正解は②

- ①不適。ブッダの言行を収録した最古の仏教聖典が『スッタニパータ』であるが、ブッダは王子の身分を捨てて出家したので、「自らの社会的身分に即して活動した」わけではない。
 ②適当。イスラーム教徒が信じるべき6つの項目(六信)の一つに「聖典」がある。ユダヤ教やキリスト教の経典も含まれるが、クルアーンが最も重要とされ、クルアーンを根拠として、宗教儀礼や社会生活全般に関わるルールを体系化したシャリーア(イスラーム法)が成立した。
 ③不適。『イリアス』『オデュッセイア』は、トロイア戦争とその後を描いたもので、神々の意志に支配される英雄の姿が描かれる。
 ④不適。イザヤは紀元前8世紀ごろに活躍したとされる預言者。イスラエルの危機の原因は人々の信仰の墮落にあると批判した。「王国のあり方を賞賛」が誤り。

問2 12 正解は③

- ①不適。アッラーは預言者ムハンマドにアラビア語で啓示を伝えたとされることから、クルアーンはアラビア語で著わされた。他の言語に翻訳されているが、アラビア語で記されたクルアーンのみが聖典とされ、礼拝ではアラビア語でクルアーン

ンを読誦する。

- ②不適。礼拝はカーバ神殿のある聖地メッカに向かって行われる。
- ③適当。五行とはムスリムが実践すべき5つの行為のこと。信仰告白(シャハーダ)・礼拝(サラート)・断食(サウム)・喜捨(ザカート)・巡礼(ハッジ)がある。
- ④不適。イスラーム教徒は、ユダヤ教徒・キリスト教徒も同じ唯一神からの啓示による信仰を共有していると考え、彼らを「啓典の民」と呼んだ。

問3 [13] 正解は④

- ①不適。荀子は「礼義(社会規範)や作為の集積が人間の生まれつきの性にそなわっている」という考え方(2文目)に対して、3・4文目で反論している。
- ②不適。資料文1文目に、聖天子や優れた君子も暴君・大盗賊・つまらない小人と性は同じとあるので、堯や禹の「性が小人とは異なっていた」という記述は誤り。
- ③不適。「優れた君子」は「生まれつきの性を変え」ることができたので人々から尊重された。
- ④適当。資料文5文目の内容に相当する。

問4 [14] 正解は②

アリストテレスは、自然の事物は形相を実現させることを目的として運動するという目的論的自然観を唱えた。よって②が適当。①は「質料の実現という目的に向かって」、③・④は「偶然的で自由な仕方で」という部分がそれぞれ誤り。

問5 [15] 正解は④

- ①不適。孔子は「仁と礼に基づく」徳治主義を理想とした。「武力に訴える」政治を霸道政治という。
- ②不適。孔子は人格の完成には仁と礼が最重要としており、「仁が不要」は誤り。
- ③不適。阿羅漢とは小乗仏教の理想像で、修行を完成した仏弟子の最高位を指す。
- ④適当。大乘仏教では一切衆生の救済を目指して利他行に励む菩薩が理想とされた。

問6 [16] 正解は①

- ①適当。八正道とは、「快樂と苦行を避け、中道に生きるための修行法」のこと。そのうちの「正業」とは正しい行為を行うこと。
- ②不適。「正しく認識すること」は正見。
- ③・④不適。六波羅蜜とは、大乘仏教の求道者が実践すべき徳目。

NOTE 八正道

正見	正しい見解	正命	正しい生活
正思	正しい思考	正精進	正しい努力
正語	正しい言葉	正念	正しい自覚
正業	正しい行為	正定	正しい瞑想

問7 [17] 正解は①

- ① 適当。パウロは「人間は、善を望んでいるはずなのに、望まない悪を行っている」(『ローマの信徒への手紙』)と述べ、原罪をもつ人間が救済されるために、キリストへの信仰と隣人愛の実践を説いた。
- ② 不適。キリスト教では、イエスによって、愛による人間と神との新しい契約が結ばれたとされるが、イエス自身が「神と契約した」わけではない。
- ③ 不適。パウロの思想の根底には原罪の思想があり、「罪のない本来の自己」は誤り。
- ④ 不適。「善行を積むことによって」ではなく、信仰によって「神から義とされる」とパウロは説いた。

問8 [18] 正解は④

- ア. 誤。ブッダは自己を「不変の存在」とする見方を否定した。
- イ. 正。プラトンは人間の魂を、イデアに向かう「理性的部分」、快楽を充足させようとする「欲望的部分」、その両者の中で意志を司る「気概的部分」の三部分に分け、「理性的部分」が命令し、「気概的部分」が助け、「欲望的部分」が従うとき、人間の魂が正しい状態になると述べた。プラトンの正義とは、このように秩序づけられた状態のことであり、秩序が乱れた状態を不正とした。
- ウ. 正。朱子の理気二元論の説明として正しい。

問9 [19] 正解は②

- ① 不適。本文でいう「人間の弱さ」とは「欲望から離れられない」ことであり(第3段落)、「自らのあり方から目を背けてしまう」ことではない。
- ② 適当。本文をまとめた最終段落の内容に相当する。
- ③ 不適。第3段落で「人間が欲望に深く囚われた弱い存在だとする考え方」について言及されているので、「欲望に囚われることのない存在」という人間観は不適。
- ④ 不適。他者を模範とすることを否定する内容は本文の趣旨に反する。

第3問 標準 《「教える」という営みについて》

問1 20 正解は①

- ① 適当。古代日本人にとって、自然現象や鳥獣など、おそろしい力や働きをもつものはすべて神と考えられた。よって神は「特定の形」をもたない。
- ② 不適。日本の神話では、ユダヤ教やキリスト教のような造物主を想定しない。
- ③ 不適。神の働きをやわらげるために神をもてなす儀礼が祭祀である。
- ④ 不適。神は人々の生活に繰り返しやって来て災厄と豊穡をもたらすと考えられた。

問2 21 正解は④

ア. 誤。真言律宗の開祖は鎌倉時代の律宗の僧である叡尊。真言宗の教義に基づいて戒律を重んじ、病人の救済活動や橋の建造など、衆生救済のための社会事業を行った。

鑑真は中国唐代の僧で、奈良時代に来日し律宗を伝えた。日本の受戒制度を整えるために貢献したが、「病人の救済や、道路や橋の修造」に尽くしたわけではない。

イ. 正。空海は、唐で密教を学び、帰国後、真言宗の布教につとめた。また、民衆のための教育機関として綜芸種智院を設立するなど、社会事業も行った。

ウ. 正。念仏を唱えながら踊る踊り念仏を広めて時宗の開祖となった一遍は、すべてを捨てて諸国を遊行したことから、遊行上人または捨聖と呼ばれる。

問3 22 正解は②

天台宗で学んだ後、『法華経』こそが末法の世を救う最高の經典であると確信した日蓮は、日蓮宗を開き、末法の世に仏国土を実現することを目指して活動した。

① 適当。日蓮は、北条時頼に『立正安国論』を献じ、『法華経』に基づく政治を建言した。

② 不適。『法華経』を絶対視する日蓮は他宗を激しく攻撃したので、「他宗に協力を呼びかけた」という記述は誤り。

③ 適当。『法華経』では、真理そのものを仏として捉え、永遠に存在し続ける仏(久遠実成の仏)の存在が説かれる。

④ 適当。日蓮は様々な迫害を受けるなかで、自身を『法華経』に登場する菩薩になぞらえ、『法華経』を広め実践する法華経の行者としての自覚を深めていった。

問4 23 正解は④

a. 『大和本草』『養生訓』の著者は江戸時代中期の朱子学者貝原益軒。

本居宣長は江戸時代中期の国学の大成者。主著に『古事記伝』などがある。

- b. 懐徳堂で学んだ人物に富永仲基がいる。神道・仏教・儒教を批判し、学説は旧説を補うことで発達するという加上説を唱え、大乘経典のほとんどは釈迦が語った言葉ではない(大乘非仏説)と述べた。

安藤昌益は江戸時代中期に封建社会を批判した東北の医者。

- c. 空欄直前の「儒学の原典に直接向き合うことを重視した」という記述から、江戸時代中期に中国の古典を直接研究する古文辞学を提唱した荻生徂徠とわかる。新井白石は江戸時代中期の朱子学者で幕政にも参与した。

問5 [24] 正解は③

- ①不適。「仏教を排斥」が誤り。石門心学は神道・儒教・仏教を融合したもの。
 ②不適。石田梅岩は町人に平易な言葉で講義を行い、女性の聴講も認めた。
 ③適当。石田梅岩は身分秩序そのものは否定せず、「社会的分業」として捉えた。
 ④不適。「商人の買利は士の禄に同じ」という石田梅岩の言葉が示すように、流通によって「利益を獲得すること」は正当な報酬であるとして営利活動を肯定した。

問6 [25] 正解は④

- ①不適。西周ではなく、新島襄についての説明。
 ②不適。植木枝盛ではなく、中江兆民についての説明。
 ③不適。西周ではなく、福沢諭吉についての説明。
 ④適当。植木枝盛は、主権在民を主張し、人民の抵抗権を保障する私擬憲法草案を起草した急進的な民権思想家として知られる。

問7 [26] 正解は③

- ①不適。明治後半以降、忠・孝を中心とする国家主義的な国民道徳が義務教育によって普及した。代表的論者に西村茂樹や井上哲次郎がいる。
 ②不適。人格の発展に最高の価値を求める人格主義を唱えたのは明治～昭和期の倫理学者・美学者である阿部次郎。教養を摂取することをすすめた『三太郎の日記』は大正時代の教養主義に大きな影響を与えた。
 ③適当。三宅雪嶺は明治～昭和期の評論家。極端な欧化主義を批判して、志賀重昂らと政教社を設立し、雑誌『日本人』で国粹保存主義を唱えた。また、主著『真善美日本人』で、世界に貢献する使命を担う日本人としての自覚を求めた。
 ④不適。超国家主義^{ウルトラナショナリズム}を主張したのは、大正・昭和期の国家社会主義者である北一輝。『日本改造法案大綱』で、天皇と国民が直接結びつく社会へと国家改造することを説いた。

問8 27 正解は④

資料文は伝道活動の精神について述べたもの。

- ①不適。「神の完全性を示すことを目指すべきではない」という記述が誤り。
- ②・③不適。資料文は人間の弱さを前提にしているところがポイント。「人々に弱さを克服する意志をもたせ」たり(②)、伝道者が神の強さに近づくために努力する(③)といった、強くなることを目指す趣旨の記述は誤り。
- ④適当。資料文1～4文目の内容が④の1文目に相当、資料文5・6文目の内容が④の2文目に相当する。

問9 28 正解は②

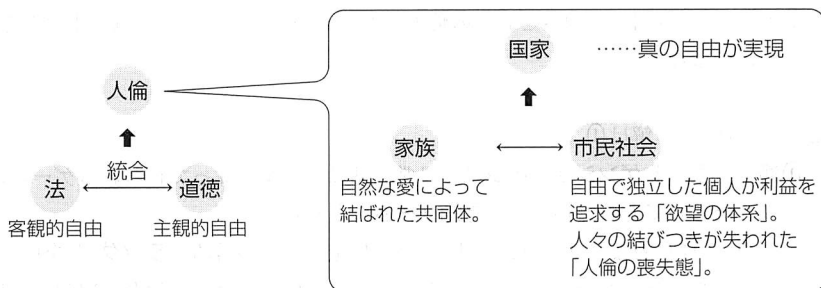
- ①不適。第3段落で、石田梅岩や手島堵庵が自らは不徳であるという自覚をもちながら教えるという営みに従事した例が述べられているが、「徳が人々に認められる」ことで「自己の立場を確固たるものにする」という記述は本文にない。
- ②適当。本文をまとめた最終段落の内容と一致する。
- ③不適。最終段落に「先人たちにとって、教えるという営みは、自己のあり方やその役割を模索すること」と明記されており、「自らの立場や役割を省みることなく、布教や教育活動といった実践に専念した」という記述は誤り。
- ④不適。第4段落で、西村茂樹が「誰か一人を師として信奉するような態度を批判」した例があることから、先人たちの営みが「神仏や師に全面的に依拠しようとする姿勢に支えられていた」という記述は誤り。

第4問 やや易 《西洋近代思想における遊びの意義や役割》

問1 29 正解は②

ヘーゲルは、客観的な法と主観的な道徳をともに活かしつつ、自由が実現される共同体を「人倫」と呼んだ(②適当)。人倫は「家族」「市民社会」「国家」の三段階として現れ、最高段階の「国家」において真の自由が実現する。

- ①不適。市民社会は利益追求の場であり、「内面的な道徳」は育まれない。
- ③不適。「法」は自由を客観的に保証する。また、「人倫の喪失態」とは、「欲望の体系」となった市民社会のこと。
- ④不適。家族は愛情によって結ばれているが、個人の自由は自覚されない。

NOTE 人倫の体系

問2 [30] 正解は④

- ①不適。ルソーの社会契約説の説明。
- ②不適。道具主義を唱えたプラグマティズムの大成者デューイの思想。
- ③不適。古典派経済学の祖アダム＝スミスが『諸国民の富』で説いた内容。
- ④適当。ロックは、権力の集中と濫用を防ぐため、国家の権力を立法権・行政権（執行権）・連合権（同盟権）に分離させる三権分立を説いた。この考え方はフランスのモンテスキューに影響を与えた。

問3 [31] 正解は⑤

カントは「経験論」と **a 合理論** を批判的に統合し、ドイツ観念論を確立した。カントによれば、認識は、**b 感覚** に与えられた「直観的」な印象を「**c 概念**」の能力」である悟性が秩序づけることで成立する。

CHECK 形式（カテゴリー）を「純粹悟性概念」ともいう。

問4 [32] 正解は④

- ア. 誤。帰納法に基づいた経験論を唱えたベーコンについての説明。
コペルニクスは地動説を唱えた天文学者。
- イ. 正。機械論的自然観はニュートン力学によって確立したといえる。
- ウ. 正。『沈黙の春』の著者カーソンについての説明として正しい。

問5 [33] 正解は④

資料文は「個人的娯楽」としての「技の遊び」が「競争の遊び」へと変化する理由について述べている。道具を使う遊びは一人で遊ぶこともできるが、結果を出して誇りにしたいという欲求が、競争相手や観客を必要とする。これをまとめた④が適当。

- ①・③不適。「技の遊び」と「競争の遊び」の2種類があるという記述は誤り。
- ②不適。「競争相手や観客としての他人」が「その場に」いなければ「上達しない」わけではない。

問6 34 正解は①

- ①適当。ウィトゲンシュタインは、日常会話はルールに従って行われるゲームに類似したものであると捉えて「言語ゲーム」と呼んだ。
- ②不適。「日常的な発話(パロール)」と「構造としての言語(ラング)」を区別し、パロールはラングの体系の中で意味をもつと説いたのは言語学者のソシュール。
- ③不適。1文目はフロイトに影響を受けたフランスの精神分析家ラカンの思想内容。
- ④不適。「脱構築」はアルジェリア生まれのフランスの哲学者デリダの用語。

問7 35 正解は③

- ①不適。カッシーラは人間を「象徴(シンボル)を操る動物(ホモ=シンボリックス)」と定義した。
- ②不適。リンネは人間を「ホモ=サピエンス」と定義した。
- ③適当。ベルクソンは工作することに人間の本質を見出した。
- ④不適。「ホモ=レリギオースス」と定義される人間観。

問8 36 正解は③

本文は遊びの意義や役割を考察している。長い間、遊びは不要なものとして軽視されてきたが、時代が進み、「人間精神の自由や創造性」(第3段落)、「社会的活動を理解する鍵」(第4段落)として評価されるようになった。これをまとめた③が適当。

- ①不適。第2段落で、ロックが「息抜きや気分転換としてのみ」遊びに価値を認めたと述べられているが、第4段落には、子どもが他者を理解するうえで遊びが重要であるとG.H.ミードが考えたことが紹介されており、2文目の記述は不適。
- ②・④不適。20世紀に入って「宗教や法律によって社会の規律が強められた」(②)、「人間の社会的活動が実目的から離れた」(④)という記述は本文にない。